



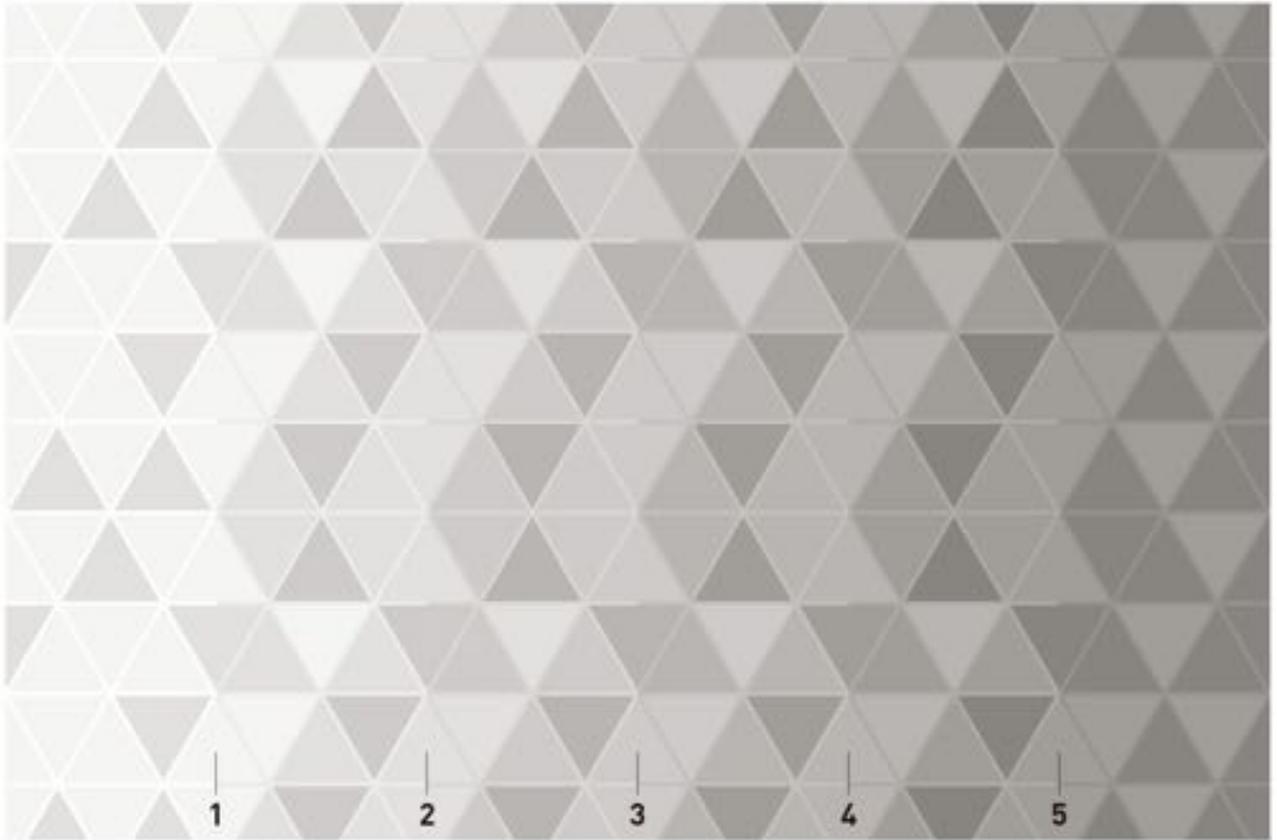
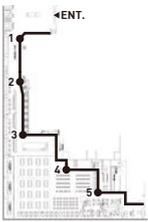
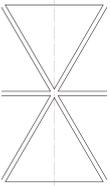
日本郵政 本社オフィス 食堂

建替え前、この地にあった通信ビルで数多く用いられた正三角形。この「正三角形」をモチーフとして食堂全体に取り入れ、通信建築の伝統をつなぐことを意識した。食堂内の連続する壁には正三角形で構成したグラデーションパターンを配置。入口から奥へと色の明度を下げ、家具のスタイルや照明の色温度と同調させた。連続する柱には、社員が企業の歴史を感じられるよう年表を配置。年表の数字は正三角形で構成され、空間全体の調和を図った。

所在地	： 東京都千代田区大手町
完成年月	： 2018年8月
ディレクション	： 日本郵政不動産 _ 齋藤隆司
デザイン	： テラダデザイン一級建築士事務所 _ 平手健一
空間設計	： 日本設計 _ 崎山茂、大坪泰、田口富英、讃井章 渡邊順一（元社員）、本間行人、丸山義貴
施工	： 竹中工務店、びこう社
撮影	： 川澄・小林研二写真事務所（写真：K） 大森有起（写真：O）

正三角形を用いたグラデーションパターン。壁の出隅で色を切り替えることで、違和感なくパターンが連続するよう構成した。さらに正三角形の頂点と壁の切り替わり位置を合わせることで、グラフィックと建築との調和を図った。

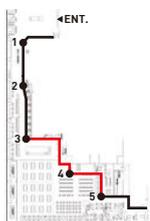
壁面切替位置



明るい自然光を取り入れた食堂最初のエリアは、高い明度のグラデーション壁面を配置し爽やかな空間を演出した。

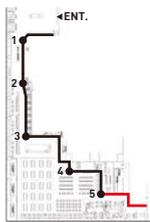


ペンダントライトと木質家具がやわらかな印象を与える食堂中央エリアは、中間明度のグラデーション壁面を配置し、暖かみのある空間を演出した。



K

ゆったりとした低座の家具で構成された食堂奥のエリアは、低い明度のグラデーション壁面を配置し、落ち着いた空間を演出した。



K

連続する柱には、社員が企業の歴史を感じられるよう年表を配置。年表の数字は正三角形で構成され、空間全体の調和を図った。また大きく表示した年号は待ち合わせ用のサインとしても機能する。



K

食堂中央のステージに配置した日本地図。社員の想いをつなぐ役割として、日本全国の社員から集めた使用済み切手を利用し、社員自らの手で制作された。



広島県出身の社員によって貼られた、「厳島神社」「広島城」「広島カープ」などのご当地切手。社員それぞれが自分の出身地に想いをのせて切手をコラージュした。

